

2014年2月4日開催 第585回番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長、櫻井美幸副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、佐藤友美子委員、東野博昭委員、若菜英晴委員、佐藤卓己委員(書面参加)

■ 毎日放送出席者

河内社長、松島専務、榎本専務、梅本常務、豊田取締役、木田取締役
赤阪コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長
岡田制作局長、宗川プロデューサー

◆ 審議事項

テレビ番組「ちちんぷいぷい新春スペシャル 縁起もん探しに行こッ！」(1月3日放送)について意見交換した。

各委員の主な意見は次の通り。

- * 取材される側の人たちが温かくて、親切で、感動的だった。あれは、取材する側の誠実さとか、礼儀正しさが全部反映されているのだろう。見ていて安心する。
- * 料理コーナーのよさは、自分でもつくってみようか、つくれそうというのが魅力で、このコーナーは少し魅力を感じなかったというのが主婦としての感想。
- * 普通の生活スタイルがそのまま出てくるのがいい。それができるのが、長谷川さんのよさで、テレビだからこそその魅力的な幅、広がり、深みを今回は見させていただいて、ファンになった。
- * 総じてゆったり感、温かみのあるまさにMBSらしい、「ちちんぷいぷい」のいいものが非常に詰まった3時間だ。
- * 感性は新しく、でもテイストは昔の感じというのが「ちちんぷいぷい」らしさで、ふだんの番組の中でも人気があるというのは、そのテイストがあるから。
- * お正月らしくゆったりと、見ているほうも穏やかな気持ちで、気持ちよく見ることができた。番組全体に流れている温かさ、出てこられる方の人柄もちろんあるが、大阪弁がすごくやわらかくて、いい感じだ。
- * 番組制作に当たっては、普通の暮らし、普通の幸せを求めて日々誠実に努力している人たちがいることをベースにしている。それを忘れない限り、この番組は続いていくだろう。
- * 新春の「箸休め」のバラエティー番組としては典型的な作り方なのだろうが、もう少し「美しいシーン」が欲しかった。

以上